
今イジメで自殺を考えている若い人たちへ

岳石祭人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今イジメで自殺を考えている若い人たちへ

【Nコード】

N65000

【作者名】

岳石祭人

【あらすじ】

今、イジメで悩み、死んでしまいたいと追いつめられている人がいたら、読んでください。

まず最初に認識してほしいのが、あなたは今、異常な状態におちいつているということです。

自分を殺すというのは生き物の本能として最も避けるべき行為です。

それをそうしなければならぬと精神を追いつめられているあなたの状態は異常であり、そういう心の状態にあなたを追いつめているあなたの環境＝学校のイジメは異常な状況であるということ、まずは認識してください。

そして、

イジメに悩んで「死んでしまおう」と考えているあなたの考え方は、とてもせまい常識内の考えだと分かってもらいたいと思います。

2

イジメで死んでしまおうなど、実に安易でつまらない考えです。こんなことを言うと、どうせ大人には自分たちの苦しみを分かってもらえない、と思うでしょうが、そうではないのです。

この状態を生き延びて、大人になれば、あああの時死ななくて良かったな、と必ず思うはずですよ。

だから今がまんして頑張れ！、と言われるのも辛いでしょう。

頑張らなくていいですよ。

ただし、必ずしてほしいことがあります。

まず、あなたを追いつめている状況＝学校のイジメから今すぐ逃げてください。

明日でも今日にでも、断固登校を拒否してください。

その状況は異常なものであり、変わらなければならぬのはあなたではなく、異常なイジメという状況の方なのです。あなたが悪いではありません。イジメが悪いのです。そのことを絶対に考え違いしてはいけません。

そして、大人の人に話してください。

あなたが、この人は絶対自分の味方をしてくれると信頼できる大人にです。

たぶんそれはあなたのお父さんお母さんだと思いますが、そういう人が周りにいなければ、それは後で書くので読んでください。

信頼する大人の人に自分の辛い状態を話すのはとても勇気のいることだと思います。

きつとあなたはその人を大切に思っていて、その人がそのことを知ってとても心配して、悲しむのではないか？、心配させたくない、悲しませたくない、と思うでしょう。

しかし、しっかり考えてほしいのは、あなたが傷つけたくないと思う人は、あなたが死んでしまったら、間違いなく、ものすごく悲しんで、あなたのことを分かってあげられなかったことを死ぬほど後悔して、自分を責めて傷ついて、間違いなく、あなたのために泣く人です。

あなたがその人を信頼して傷つけたくないと思うなら、正直に自

分の苦しい思いを話して相談してください。

その大人の方は、あなたの味方です。

あなたはその大人の人に守ってもらってください。

無理にイジメという異常な状況と闘おうとせず、大人の人にその状況を解決してもらってください。

その大人の人に解決できず、例えば先生や学校が自分たちの身を守るために「イジメなんてない」「問題があるのはあなたの子どもの方だ」と嘘をつくなら、その先生も学校もあなたの敵です。あなたを苦しめるイジメという状況の仲間です。

あなたにしつかりした強い意志を持つてほしいのは、悪いのはあなたではなく、あなたをいじめるクラスや先生や学校だという認識です。

彼らはあなたの敵なのです。敵の言う「悪いのはおまえだ」という言葉に心を動かされることなく、しつかり自分の心を守ってください。

あなたが学校でのイジメで死にたいと思うほど追いつめられているのだとしたら、その学校のイジメはもう解決できないと考えてください。

表面的に「もうイジメはしません」ととりつくろっても、彼らはきつと「面白くない」でしょうし、あなたに対して表面的に仲良くしても、きつとそれは本心からではなく、あなたに対して「これで

いいんだろ？ だからもう問題を起こすな」とプレッシャーをかけて、あなたを悪者にして、あなたの心を傷つけるでしょう。

彼らのことはもう忘れてください。

そんな身勝手な人たちのせいでああなたが傷つく必要はないのです。彼らはあなたの友だちなんかじゃありません。

あなたが無理に仲良くしてやる必要もないのです。

負けるようで悔しいでしょうが、彼らのことは忘れて、彼らから離れてください。

今あなたをいじめている子どもたちは、きっと、大人になって、結婚して、自分たちの子どもを持てば、今度は自分の子どもが（自分たちがしたように）他の子どもたちにいじめられるんじゃないか？他の子どもをいじめて自殺させるようなことをするのではないか？、と苦しむことになります。それがあなたをいじめた彼らの受ける罰です。彼らはきっと、すごく苦しむようになります。（それで苦しまないようならその人は最低のくずです。心から軽蔑してあげなさい。）

あなたの直面しているイジメ問題が、あなたの信頼する大人の人力で解決できるくらいまだ軽いもので、学校の先生が本気で話を聞いてイジメをやめさせようと努力してくれるのなら良いでしょう。あなたも頑張ってください。

でも、上に書いたようにまるでイジメをなくそうという本気の決心がないようなら、

あなたは学校を変えてもらってください。

大人にはつきりそうしたいと伝え、大人に頑張つて交渉してもらってください。

きっと学校側はあれこれ理由を付けてあなたを引きとめようと、自分たちの立場を守ろうと、するでしょう。

そこはあなたではなく大人の人に頑張ってもらってください。

くれぐれも、あなたが頑張つて犠牲になつてはいけません。

大人の人にとつても、それは大事なあなたを守るための戦いなのです。

あなたは味方であるその人を信頼してください。

転校して新しい環境に入るときには、自分がいじめられて避難してきたことを、正直に話してください。

ふつうの人たちは、「イジメ」というものを「悪」だと思うものです。

助けを求めて逃げてきたあなたを、きっと受け入れ、守ってくれます。

そして、それでも、

大人の人でも解決できない場合、

あなたの身近に心から信頼できる大人の人がない場合にも、

一番良いのは、

新聞やテレビに手紙を送ることです。

同時に地域のそつという問題を扱うボランティア団体にも「同

じ手紙」を送るのが良いでしょう。

新聞やテレビはこういう問題に対してとても敏感です。そして、あなたをいじめめる環境「学校にとってはもつとも嫌な相手です。

あなたの置かれてる「イジメ」という環境を外から客観的に評価してもらってください。

送る手紙は自分が記者になったつもりで正確に具体的に書いてください。そうすればあなた自身も自分の置かれた状況がいかに異常であるかを客観的に見ることができるでしょう。

イジメ問題に取り組むボランティア団体にはあなたと同じようにイジメに苦しんだ経験を持つ先輩がいるかもしれません。彼らは「人権問題」に対しても真剣に取り組んでいるので、必ず、あなたの味方になって、あなたを助けてくれます。

最初の方で

「イジメで死んでしまおうなど、（せまい常識内の）安易でつまらない考えです」

と書いた意味が分かっていたただけででしょうか？

あなたが求めてくれれば、

社会には、あなたの味方になってくれる大人がたくさんいるのです。

あなたは絶対に、孤独ではないのです。

あなたが悲しませたくないと心を痛める相手は、あなたが心を痛めているのが一番辛いのです。

勇気を出して、彼らに甘えてください。

くり返しますが、これだけは絶対に心にとどめてください。

あなたを助けてくれる味方は必ずいます。

もし自分で今の苦しい状況を話す勇気がなかったら、大人の人に「これ読んで」とこの文章を読んでもらってください。

そして読み終わった大人の人に学校でのことを質問されたら、そのときは正直に答えてください。

その人はわたしがここで書いたこととは違うことを言うかもしれませんが、それがあなたの信頼する人ならば、では自分たちはどうしたらいいか、よく話し合ってください。その人はわたしなんかよりずっとあなたのことをよく知っていて、あなたのことを大事に思っているはずですから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6500o/>

今イジメで自殺を考えている若い人たちへ

2010年11月2日01時01分発行